

日刊 磐城時報

編輯者 岡田弘成
印刷所 磐城時報印刷所
發行所 磐城時報社
電話 一四四

内郷村長の後任は
結局沼田氏か

けふ決戦投票を行ふ
磐炭社員は棄権

内郷村長後任問題は既執の如く... 沼田濱之助氏を推す一派と助役...

町村長出縣

石城郡町の町長青沼平... 村長會總會は三十日午前...

伏見前町長に對する
慰勞金問題

四日の町會で決定

前伏見前町長に對する慰勞金は見氏は十五ヶ年の永き而も平町...

石城の入營兵

合計二百五十五名

石城郡に於ける本年度入營兵は... 財政上から少額を希望する...

前縣議山崎吉平氏
上京中重態に陥る

帝大病院に入院
石城郡飯野村元縣議員山崎吉平...

秋刀魚
引續き豊漁

小名濱の秋刀魚漁は連日豊漁... 相場場の下落も何んその大漁...

銅線泥捕はる
内郷を中心荒し廻る

内郷村磐城炭礦の宮にある機械大宇宮無職永山三五治郎...

前年と比較すると
出炭量は減つた

最近十日間の出炭六萬噸

常磐各炭礦に於ける十月下旬十日間の出炭量は聯合會の調査...

果實商
訴はらる

平町二丁目果實商津輕屋津島竹松...

稻泥棒
精神病者と判明

一日午後三時頃江名町北郷地内佐藤某所有の水稲を刈り取つて...

四倉の豚コレラ

四倉町の豚コレラは漸やく終熄的に持前の盜癖が出る...

水産試験場
移轉問題

縣立水産試験場に對し地元小名濱町は...

小學校増築

四倉町では一日午前九時から町會を開き...

江名町から

石城の江名町、これこそはかつて陛下における水村の一實例であつた...

小名濱港の公民教育

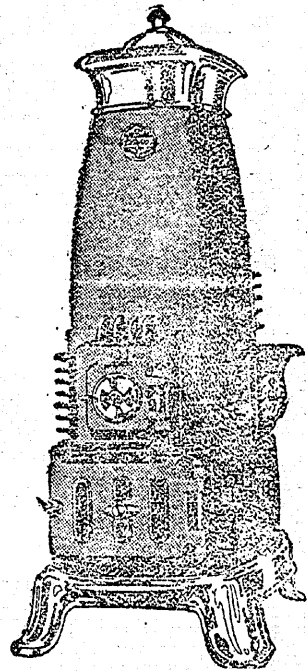
内容充實

小名濱町では生命とする漁業の發展向上に力を注ぎ明治三十九年小學校卒業生を以てその専門的知識と郷土に即した堅實なる公民を養成すべく實業學校を創設過去二十數年間に二千餘名の卒業生を出し現に町の中堅として活躍してゐるが、本年度に至り小學校校長西山氏は更に現社會の思潮から見て教育の根本義は地方化、實際化せしめ以て實習

陽 内科 専門 村松
 十二指 腸胃病 胃性病 腸病
晝夜 婦人病 淋病 皮膚病 専門 院 醫 科
 (七〇一話電) 町 平

体験を通して健全な人格を完成するにあり、の信念から従來の高卒後二ヶ年制度を専卒後四ヶ年制度としてその實を擧げしむるにしかざるを痛感し町有志を力説四月から實現を見るにや、現在生徒百三十名は枚々として勉學と實習体験にいそしんでゐるが、同校専任五教諭は何れも官立中等校教諭有資格者にして一意指導に専念してゐる。なほ明年度から一名専任教諭を増員することに内定益々内容を充實することになつた。

嚴冬の征服者 福祿ストーブ



四海は常春 電話三七番へ カタログ御申越下さい 早速持参致します 平停車場前 福祿ストーブ 福島縣一手販賣 阿部石炭店

處方調劑 藥品一般 体温計 平町五丁目角 山野邊藥局

郷土生藥研究 和漢藥療法 東華皇漢研究所 顧問 藥學博士 柳澤秀吉先生 藥劑士 山野邊東次郎

内科 醫學博士 難波 睦 平町大町新川端 電話(五〇二番)

和洋銅鐵金物問屋 久益屋商店

諸橋久太郎 電話九九番

三河産業博覽會 昭和产业博覽會 金牌受賞

かまぼこ 折詰仕出し 吉原揚

お惣菜用 さつま揚 吉原揚 電話一四一番

専門内科一般

内科ハ何デモ診療致マス 呼吸器病バカリデアアリマセン

川井内科診療所 醫學士 川井重子 女醫 川井安子

平看護婦會 會長 清野キヨ 平町宇南町 電話三〇七番

世界の名湯國立療養所の所在地 別府の天然家庭温泉

命の洗濯

一、温まる事は天然温泉と變りありません 二、萬病に靈驗的効果のある天下の別府温泉を日常家庭で湯治の出来る重寶な家庭温泉 三、從來の浴劑を斷然優越せる新發見劑 四、石鹼の使用は出来る、白粉の伸を良くす、皮膚を美化する理想的浴劑

疲勞回復、健康増進の鍵 病魔征服、傳染病豫防の武器

眞の温泉療法は、若葉の三四月から夏に於て最有効な時期です、是非御試用願ひます。

六回分(二日使用 十二日分) 五十錢 十四回分(同 廿八日分) 一圓 三十四回分(同 二月八日分) 二圓

命の洗濯代理店 小野屋藥舖 電話一四四番

かまぼこ 折詰仕出し

御惣菜用 さつま揚 吉原揚

藤市蒲鉾店 電話三〇五番

耳鼻咽喉科専門 氣管食道科

病室完備・自炊の便あり 平町南町 大和田醫院 電話一七〇番